# 義務教育課だより　2月号

## えひめっこピカイチ大賞表彰式開催

１月 11 日に、愛媛県庁において令和５年度えひめっこピカイチ大賞の表彰式を開催しました。今年度は、「情報活用」「読書」「タイピング」の３部門を設定しました。表彰式では、えひめっこピカイチ大賞を受賞した 1,295 名のうち、特に優秀と認められた 16 名に愛媛県教育委員会教育長、愛媛県教育研究協議会会長、日本教育公務員弘済会愛媛支部支部長が賞状及び記念品を授与しました。

「タイピング部門」は、ＥＩＬＳのタイピングアプリを用いて、コンテストを行いました。受賞者は、１分間に何文字入力できると思いますか？受賞した児童の一人は、１分間に 300 文字以上入力し、表彰式後にタイピングする様子を実際に披露してくれました。一般的な文字入力では、スペースキーで漢字変換等をする際に親指を使用しますが、親指を自在に操り、10 本の指で表示された単語を瞬時に入力する児童の入力方法に、周囲の大人たちは驚かされました。

愛媛県 ICT 教育推進ガイドラインに示す児童生徒の「Can－Do リスト」による調査では、1 分間で設定した文字数（文章で、小学６年生 20 文字以上、中学３年生 35 文字以上）を入力できる児童生徒の割合は、小学６年生で 92.1%（前年比＋11.5%）中学３年生で 80.2%（前年比＋24.5%）と県内全体で向上しています。

「読書部門」は、各校で選ばれた 382 名の学校表彰者の中から、ＥＩＬＳみきゃん通帳にある「読書量（読んだ冊数）」と記録した「感想」を総合的に判断して、県庁表彰者を選定しました。受賞者の一人は「ジャンルを決めず様々な本を読みます。読み終わった後の感想を記録していくと 80 冊以上も読んでおり、我ながら驚きました。みきゃん通帳が私の宝物になりました。」と感想を述べていました。読んだ本の冊数のように自分の好きなものを「見える化」することで、自分の活動を振り返り、自信や更なる活動の意欲につながっています。

「情報活用部門」には 2,210 点の応募があり、各地域の魅力をスライドにまとめた作品を、主題の明確化、内容・表現の工夫、メッセージ性の３観点で総合的に判断し、学校表彰者 150 名、県庁表彰者３名を選定しました。地域の公園で見つけた珍しい動植物や特産品「今治タオル」の魅力、「重信川サイクリングロード」について、レイアウトや写真などを効果的に用いて作成した作品は、どれも地域の魅力あふれるすばらしい作品でした。

今後も、愛媛の子供たちが様々な分野で向上心をもって生活することができるよう、子供たちが決めた目標に対する取組を認め、励ましてほしいと思います。

本事業に、指導、支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

※表彰式や受賞作品の詳細につきましては、県教育委員会義務教育課ＨＰに記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。

愛媛県教育委員会義務教育課ＨＰ

https://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/new_gimutop.html

# リーディングＤＸスクール事業

文部科学省の「リーディングＤＸスクール事業」は、全国の小中高等学校約 200 校が汎用的なソフトウェアとクラウド環境を活用した効果的な教育実践を創出・モデル化し、全国展開することで、ＩＣＴの「普段使い」による教育活動を更に推進することを目的とした事業です。

また、生成ＡＩが急速に普及する中、文部科学省では、「初等中等教育段階における生成ＡＩの利用に関する暫定的なガイドライン（令和５年７月）」を踏まえた、パイロット的な取組として、今後の更なる議論に資するよう、教育活動や校務において、生成ＡＩの活用に取り組む学校を指定し、知見の備蓄を進めています。

【指定校が実施する具体的な内容】

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

○インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施

○端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等

○校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

○実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及

県内では、四国中央市の川之江小学校・川之江北中学校、松山市の姫山小学校・勝山中学校、松野町の松野東小学校・松野中学校が「リーディングＤＸスクール」として、実践を進めています。今回はその中から、四国中央市立川之江小学校、松野町立松野中学校での取組をご紹介します。

## 四国中央市立川之江小学校

**子どものニーズに応じた個別最適な学び**

**一体的な充実**

**多様な表現を用いた協働的な学び**

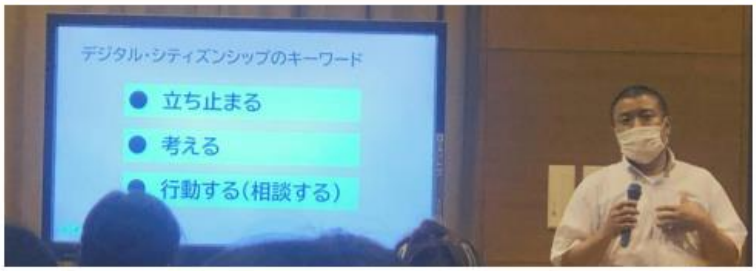
子供のニーズに応じた個別最適な学びを進め、個々の自己肯定感を高めるとともに、多様な表現方法を用いた協働的な学びを取り入れ、個別最適で協働的な学びを一体的に進める授業改善を行っています。

### デジタル・シティズンシップ教育の先行研究

デジタル社会を生き抜くたくましいリテラシーを持つ児童を育成することを目指した、デジタル・シティズンシップ教育の研究を進めています。日本デジタル・シティズンシップ教育研究会副代表理事の今度氏にご指導いただきながら、全ての学年で授業実践を進めています。

今度氏によるデジタル・シティズンシップの授業

### 保護者啓発「デジタル・シティズンシップ教育について」




新たな取組みであるデジタル・シティズンシップ教育の授業公開に向けて校内での研究、教員研修に合わせて、保護者研修会を実施しました。子供たちが学んだことを保護者にも伝え、保護者の協力を得ながら実践を進めています。

## 松野町立松野中学校

**愛媛大学教職大学院生との共同授業実践（社会科地理的分野）**

**授業内容**
- 過疎化の進む松野町の課題を見いだす。
- 一人一つ、GoogleMap 上で松野町の文化財を紹介する「松野町魅力発信動画」を作成し、Web 上に公開する。
- 松野町のすばらしさの発信➡移住者を増やしたい！

ポイント
- GIGA端末を用い、生徒が自ら文化財を調査・動画撮影をする。
- 見てもらえやすい動画に仕上げる。字幕やBGM等を入れ編集する。

**京都府立大学准教授　上杉和央先生によるオンライン授業**

作成した「松野町魅力発信動画」を京都府立大学の上杉先生からオンライン授業でフィードバックをしていただきました。

生徒の感想として「自分たちでは気付かなかったたくさんのことを大学の先生から教えていただきました。もっと編集を工夫してマップを広げていきたいと思いました。」等がありました。

教員の働き方改革と両立させる形で、子供たちの「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通した授業改善を推進するために、ＧＩＧＡスクール構想の下、１人１台端末が整備されました。

社会のデジタル化はこれまで以上に加速しており、教育の在り方にも大きな影響を及ぼしています。リーディングＤＸスクール事業のホームページには、今までの授業観にとどまらず、個々の児童生徒に情報活用能力等の力をはじめとする、本当に子供たち一人一人が必要とする資質・能力を身に付ける学びを中核においた好事例がたくさん紹介されています。児童生徒を主語とした学びの支援の連続となる新しい学習支援の創造を、リーディングＤＸスクール事業を通して、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

リーディングＤＸスクールＨＰ　https://leadingdxschool.mext.go.jp/